好きです!! にしわき わたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる
―次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり―

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

防犯グループによる見守り活動

児童生徒の皆さんの安全・安心な生活のために

児童生徒の皆さんの、登下校中や放課後、また夜間における安全の確保のために、多くの市民の方々に、ボランティア活動を続けていただいています。

防犯グループ

緑色の帽子やジャンパーを着て、子どもの見守り、町内のパトロール、危険個所のチェックなどをしてくださっている防犯グループの方々です。地区や小学校区のグループ、町内会のグループなどさまざまです。

西脇ハーティネス・メンバーズ

オレンジ色のジャンパーを着て、『ハーティネス（誠意・熱意）』を持って、子どもたちを温かく見守り、相談相手になっていただくために、平成16年度から活動を続けていただいています。メンバーを募集中です。左記青少年センターまでお問い合わせください。

■**問合せ**　青少年センター（☎22-4000）

西脇ハーティネス・メンバーによる見守り活動

青色パトロールカー

これら団体の皆さんには雨の日も、寒い冬の日も、毎日見守りを続けていただいています。本当にありがとうございます。

西脇市補導委員会

現在64人の委員が12班に分かれ、夕刻と夜間に青色パトロールカーによる巡回を行っています。

心のスケッチ 77 人権教育室コラム

さまざまな体験活動を通して

小中学生の皆さんが、さまざまな体験活動を通して自分が住んでいる地域を好きになったり、「人権」について学んだりする「にしわきっ子じんけん教室」が開講し、約1ヵ月がたちました。この教室の体験プログラムには次のようなものがあります。

例えば、稲作を通して育てることの大切さや収穫することの喜びを感じ、生命について考えるもの。障害のある方や高齢の方と一緒に活動し、共に生きることについて考えるもの。地域の活動にボランティアとして参加をするもの。異文化料理を通して、さまざまな国の文化について学んでもらうものなどです。また、阪神淡路大震災から20年の今年、淡路の野島断層保存館を見学し、震災のことを伝えることや災害への備えについて考えてもらうプログラムもあります。

5月末に上野会館近くの田んぼで田植えをしました。参加者から次のような感想がありました。「裸足で田んぼに入ったときのぬるっとした感覚、苗のかたまりから3～5本をひと株にして指にとり、ぐいっと植えたときの何ともいえない感覚、どれも、普段感じることのないものでした」

慣れない感覚の中、参加の小中学生は助け合いながら、植えていきました。中学生が困っている小学生に励ましの声をかけ、それに応えようとしている小学生の姿は、とてもほほえましくもあり、心強くもありました。

この活動には、聴覚障害の方も参加され、田植えが終わってから、手話でするあいさつを教わりました。「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」を二人組で練習をしました。だんだんと上手になり、いきいきとした表情であいさつを交わせるようになっていました。

活動を終え、さまざまな体験を通して、助け合うことや支え合うことの大切さを感じ、共に生きることについての思いを深めてほしいと強く思いました。

（人権教育室）

あぐりコラム 83

～自然の恵みを人から人へ～

市では「西脇ファーマーズブランド」を通じて、市内産農産物の魅力向上、自然にやさしい安全・安心な農産物の生産拡大を進めています。

朝ごはんを食べて農地を守ろう

稲は種から苗、お米になるまで約88の手間がかかると言われています。漢字にすると、八十八。「米」という漢字は、これからつくられたという説もあります。昔の田植えは腰を曲げ手で行うため大変な作業でした。最近では機械化が進み、少人数で作業を行うことが可能になりました。しかし、お米を食べる人が減り、米を作る面積は減っています。また、生産者の高齢化や担い手不足により耕作放棄地が増えており、農地を守るためにもお米の消費量を増やすことが必要になっています。

最近の調査では、朝食の主食として49・8％が「パン」、38・7％が「ごはん」を食べていると回答しました。一方、朝食に食べると元気が出ると思う主食は68・2％が「ごはん」、16％が「パン」と回答し、「ごはん」が大きく上回りました（20～60代1000人対象、JA全中調べ）。

朝にごはんを食べると、脳にエネルギーを供給し、やる気や集中力を高めます。また、ごはんはさまざまなおかずと相性が良く、多様な食材を使用した献立をそろえることで、栄養バランスがよくなる効果もあります。今年度は「にしわき朝ごはんレシピコンテスト」を開催。皆さんも、西脇市で作られた米や野菜を使ったおいしい朝ごはんを考え、応募してみませんか。詳しくは19ページをご覧ください。

西脇市消費生活センター

☎22-3111（防災安全課内）

No.118

平成26年度の消費生活相談報告

◆**相談件数**　364件（前年度比７件減）

西脇市の相談件数はほぼ横ばいで、昨年同様60代以上の方からの相談が増加傾向にあります（全体の約47％）。

◆**相談の主な概要**

【インターネット情報サービス（36件）】

出会い系、アダルトサイトなど有料との認識がないまま登録し利用料を請求される。被害回復しようとして、二次被害に遭うケースも目立つ。

【融資サービス（33件うち多重債務25件）】

【インターネット接続回線（14件）】

光回線・プロバイダ等で、大手電話会社と勘違いして通信料金が安くなると電話勧誘され口頭で契約成立。遠隔操作で切り替えられてしまう被害が急増。

【ファンド型投資商品（10件）】

元本保証・高額配当を装い、出資すれば儲かると知人や友人を誘い現金をだまし取る手口が目立つ。

※手口は巧妙化し、お金を払うと取り戻すことは困難です。不審に思ったらお金を支払う前に消費生活センターにご相談ください。

市長からの手紙 18

―西脇を元気に!!―

西脇市長　片山象三

地方創生～西脇市の特性や地域資源を生かして～

今年度、市では西脇版「まち・ひと・しごと」総合戦略を策定します。先月には「西脇市まち・ひと・しごと創生会議」がスタート。大学教授や国の研究機関、商工業者の若手、子育て世代の女性、西脇への移住者など25名で構成されています。

また、「関西学院大学・都市研究会」の皆さんには、外部からの視点で「若者にとって魅力あるまち」「住みたくなるまち」にするための提言をしていただくほか、市役所の若手職員らによる「次世代創生研究会」も立ち上がり、フレッシュな視点で議論を深めようとしています。

総合戦略は、「西脇らしさ」の追求でもあります。さまざまな立場の意見を取り入れながら、「西脇の総力」を結集して将来の方向性を示していきたいと考えています。

このまちに生まれたことを誇れる「西脇市」をともに創っていきましょう。

関西学院大学都市研究会が市内を「まちあるき」

市若手職員の次世代創生研究会